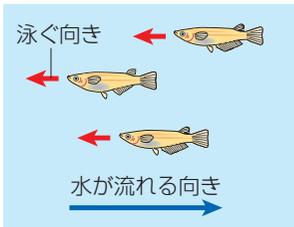


メダカ



メダカは、田んぼや小さな川で見られる(1)です。メダカは、流れの弱い所の水面近くで(2)をなし、流れと(3)に泳ぎます。



最近(さいきん)は、水(みづ)のよごれなどが原因(げんいん)で、野生(げんいん)のメダカ(クロメダカ)の数は減(へ)っています。観賞用(かんしょうよう)に改良(かいりょう)されたヒメダカがおも(おも)に飼育(しよく)されています。

成長のようす

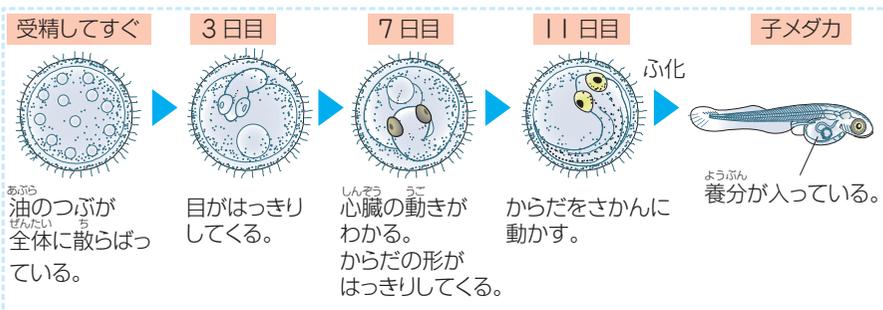
メダカなど、魚類(ぎょるい)の多くは(4)です。メダカは、昼(ひる)の明るい時間(じかん)が(5)以上(いじょう)で、水温(すいおん)が(6)以上(いぜんかい) (自然界(しぜんかい)では、(7)ごろ)になるとめすが(8)します。産卵(さんらん)は(9)に行(い)われます。



おすがめすを追いかけ、ならんで泳ぐ。 おすが背びれとしりびれでめすをだきかかえる。	おすがからだをふるわせると、めすが卵を産む。 おすが白い液を出し卵にかける。	卵(直径約1mm)に1つの精子が入る。	めすが卵を水草などにくっつける。
--	---	---------------------	------------------

受精(じゆせい)した卵(らん)は(10)で(11)します(25℃のとき)。

※水温(すいおん)が低い(ひく)とふ化(ふか)するまでの日数(ひかず)が多(おほ)くなります。



ふ化したばかりの子メダカ(こメダカ)の(12)の中には(13)がたくわえられており、2~3日はえさは食(た)わずにその養分(ようぶん)を使(つか)って成(せい)長(ちやう)します。

子メダカ(こメダカ)は(14)で成魚(せいぎょ)になり、冬(ふゆ)は水(みづ)の底(そこ)の落ち葉(おちば)のかげなどでじっとして過(す)ごし、次(つぎ)の春(はる)から夏(なつ)に産卵(さんらん)します。

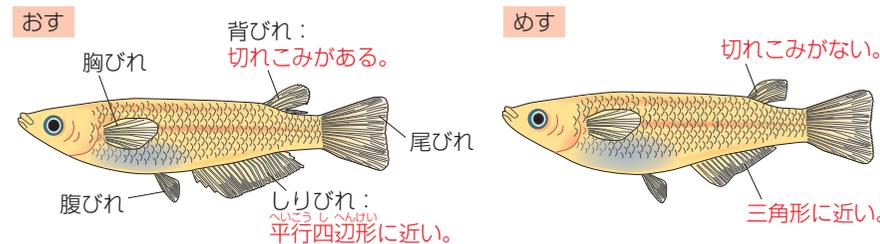
食べ物とすみか

メダカは田んぼや小さな川などにすみます。(15)したばかりの子メダカは、2~3日は何も食(た)わず、(16)を使(つか)って成(せい)長(ちやう)します。腹(はら)の養分(ようぶん)を使(つか)い切(き)ると、水(みづ)の中の(17)や(18)を食(た)べるようになります。

からだのつくり

メダカ(めだか)のからだは(19)くらいで、全体(ぜんたい)が(20)でおおわれています。(21)・(22)が(23)ずつと(24)・(25)・(26)が(27)ずつあります。

メダカ(めだか)のおす(おす)とめす(めす)は、(28)と(29)の形(かたち)で見分(み)けることができます。



メダカ(めだか)のおす(おす)とめす(めす)を見分(み)けたり、どちらか(どちらか)のからだ(からだ)を図(ず)にかかせたりする問題(もんだい)は入試(じゆし)問題(もんだい)でとてもよく出題(しゆつだい)されるのです。だから、自分(じぶん)でおす(おす)とめす(めす)のからだ(からだ)をかく練習(れんしゆ)をしてしっか(し)り覚(し)えるとよいです。

飼育の仕方

メダカ(めだか)を飼育(しよく)するときは下(した)の点(てん)に気(き)をつけます。

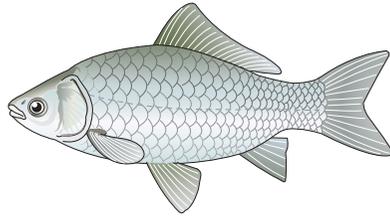
- ・水(みづ)そうは(30)に置(お)く。
- ・水(みづ)そうには(31)を入(い)れる。水(みづ)がにご(にご)ったら水(みづ)そうの水(みづ)の半(はん)分(ぶん)くらいを(31)ととりかえる。
- ・水(みづ)そうの底(そこ)に(32)をしき、(33)を入(い)れる。
- ・(34)などで水(みづ)の中(なか)に空(く)気がたくさん入(い)るよう(よう)にする。
- ・(35)のえさを毎日(まいにち)あた(あた)える。

メダカ(めだか)が卵(らん)を産(う)んだら、親(おや)メダカ(めだか)が卵(らん)を食(た)べてしま(しま)う場合(ばあい)があるため(ため)、卵(らん)を水草(すいそう)ごと別(わか)れの水(みづ)そうに移(うつ)します。

フナ



フナは、川や池などいろいろな場所で見られる、とても身近な(36)です。食用とされることもあります。



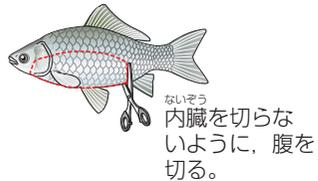
食べ物とすみか

フナは川や池などにすみ、水の中の植物や小さな動物などを食べます(種類によっては植物プランクトンしか食べないものもあります)。

からだのつくり

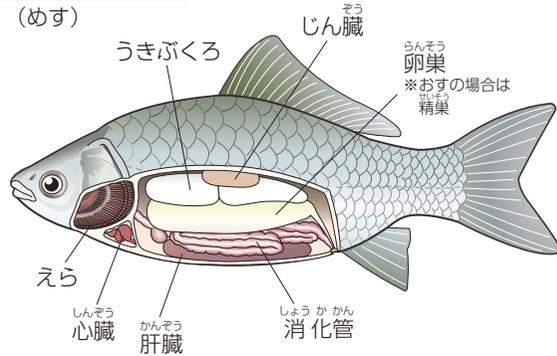
フナのからだは全体が(37)でおおわれています。(38)・(39)が(40)ずつと(41)・(42)・(43)が(44)ずつあります。フナはよく解ぼうに使われます。

解ぼうの仕方



解ぼうしたようす

(めす)



フナなどの魚の内臓も、基本的にはヒトの内臓と同じですが、魚には肺のかわりにえらがあること、うきぶくろがあることが大きなちがいです。入試問題で問われることがあるから覚えておくとよいですぞ。

キンギョ



キンギョは、鑑賞用によく飼育されている、身近な(45)です。フナのなかまを改良したものです。



キンギョを飼育するときは、メダカを飼育するときと同じ点に気をつけます。

+プラスワン

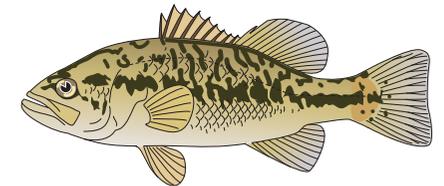
キンギョやメダカを飼育する水そうに水草を入れると、水草が卵を産みつけるためのよい場所となります。

ブラックバス



ブラックバス(オオクチバス)は、池や湖にすむ(46)です。

ブラックバスは、人間がつりをするために外国から持ちこまれた(47)です。(48)などを食べてふえるため、もともと日本にいた魚などが減ってしまうという問題が起きています。



+プラスワン

ブルーギルという淡水魚も、ブラックバスと同じように外国から持ちこまれてふえた魚の一つで、もともと日本にいた魚などが減ってしまう原因となっています。

ブルーギル

